

ID ^{注1)}	151205	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	紙・電子	保管場所 ^{注1)}		前回ID	
-------------------	--------	----------------------	---	---------------------	------	---------------------	--	------	--

報告書名称 /調査名称	平成27年度保護林（津軽、久慈・閉伊川、置賜森林計画区）のモニタリング調査及び評価業務	発行年月/報告年月	
		2016年	1月
		資料形式 ^{注2)}	報告書

調査機関	東北森林管理局	委託機関	
調査開始年	2010年	調査期間	2015年 7月 ~ 2016年 3月
調査頻度 ^{注2)}	— — —	調査時期 ^{注2)}	夏 — —
モニタリング計画	2012年3月 策定	区分 ^{注2)}	IIA 大区分 ^{注2)} 1 小区分 ^{注2)} (1)

調査箇所・範囲 ^{注3)}	調査手法
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり	保護林名：白神山地森林生態系保護地域 面積 (ha)：12627.09 (津軽森林管理署) 保護林の目的：日本海型ブナ林を主体とする原生的な天然林を保存し、森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林の管理・学術研究等に資することを目的とする。 調査項目：本調査の目的及び対象保護林調査を遂行するため、平成19年7月に策定された「保護林モニタリング調査マニュアル」および「平成22年度 東北森林管理局保護林（津軽森林計画区）モニタリング調査仕様書」に従って、以下の様式にとりまとめた。
 <p style="text-align: center;">調査対象地位置図</p> <p style="text-align: center;">※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>	・基礎調査 1. 資料・既存文献調査整理表の作成 2. 保護林情報図及び情報図整理表の作成 3. 保護林周辺における衛星写真図の作成 4. 概況調査整理表の作成 5. 保護林モニタリング調査チェックリストの作成 6. 森林調査 7. 動物調査（鳥類調査） 8. 動物調査（哺乳類調査） 9. 利用動態調査 現地調査計画及び総括整理表の作成

結果概要（スペースに収まるように入力してください）

基礎調査

- 本保護林は、青森県南西部と秋田県北西部の県境にまたがる地域に位置する。
- 面積全体の61.2%を占める保存地区においては、天然生林の占める割合が高くなっている（93.6%）。北西に位置する白神岳から向白神岳にかけての部分および保護林中心部の摩須賀岳頂上付近などには林地外が見られる。保全利用地区についても、点在する林地外（3.0%）、わずかに見られる人工林1（0.1%）以外は天然生林となっている。
- 周辺部の国有林は、多くが天然生林であるが、一部人工林も見られる。
- 東側で「白神八甲田緑の回廊」と接続している。
- 保全利用地区の北東部分は、「白神山地・暗門の滝自然観察教育林」に指定されている。また、「赤石溪流暗門の滝泉立自然公園」が隣接している。

第1回モニタリング（平成22年度）との結果比較：特に変化は見られなかった。

問い合わせ 林野庁 東北森林管理局 計画保全部計画課
 〒010-8550 秋田県秋田市中通五丁目9番16号
 TEL：018-836-2489 FAX：018-836-2203

《原本（データ）の帰属について》

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

●森林調査

調査プロットNo.2(標高816m) 調査日:9月2日
 高木層をブナ胸高直径70cm~90cm、樹高20m~25mが構成し、亜高木層にはハウチワカエデ、アカイタヤ胸高直径15cm~20cm、樹高10m~15m、低木層にはチシマザサ、ハウチワカエデ、オオカメノキ樹高1m~3mが生育していた。草本層にツルアリドオシ、ミヤマカンスゲ、ヤマソテツ、イワガラミ高さ1m以下が生育していた。

調査プロットNo.3(標高420m) 調査日:9月4日
 高木層をトチノキ、サウグルミ、ブナ胸高直径70cm~100cm、樹高20m~30mが構成し、亜高木層にはアカイタヤ、ホオノキ胸高直径15cm~30cm、樹高12m~18mが生育し、低木層にはオオバクロモジ、オオカメノキ、チシマザサ、樹高、1m~3mが生育していた。草本層にリョウメンシダ、ミヤマベニシダ、ウワバミソウ、オオバクロモジ、ヤマソテツ高さ1m以下が生育していた。

○各階層にブナが生育しており、ブナ林が維持されていくものと思われる。



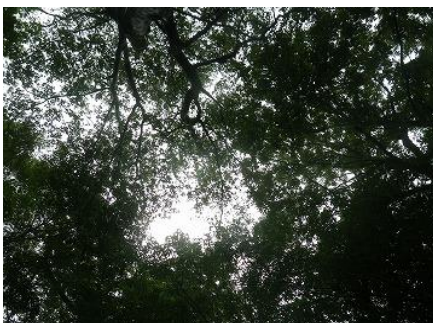
第1回モニタリング(平成22年度)との結果比較:特に変化は見られず、病虫害も確認されなかった。



プロットNo.2中心点の真上の写真



プロットNo.2中心点より東方向の写真



プロットNo.3中心点の真上の写真



プロットNo.3中心点より北方向の写真

備考

●動物調査

白神R-2

ホンドザル、ニホンツキノワグマを含む哺乳類3種と、アオバト、オオアカゲラ、カヤクグリを含む鳥類13種が確認された。その他、ヤマカガシも確認された。

白神R-3

ホンドザル、ニホンツキノワグマ、ニホンカモシカの哺乳類3種と、アオバト、ヤマセミ、ノジコ、クロジを含む鳥類24種が確認された。

第1回モニタリング(平成22年度)との結果比較:哺乳類の確認種については、変化が見られなかった。鳥類については新たに12種が確認され、前回確認された種のうち14種は今回確認されなかった。

●利用動態調査

調査日:2015年9月22日(火・祝)

シルバーウィーク(5連休)の4日目

調査地点:白神岳登山口駐車場

全国各地からの利用者数は述べ170人程度カウントされ、当日は今年一番の利用者数であった(聞き取りより)。

多くは登山目的であったが、中には沢登りが主目的のグループも複数確認された。主な利用ルートはマテ山の往復コースで、日帰りの登山客が主体であるが、山頂小屋での宿泊利用者も多数あった。

駐車場までのアクセスは自家用車の利用が大半であったが、中にはJRで最寄り駅から歩いて入山する利用者もいた。

なお、二股コースは一部崩壊箇所があり、当面の間、通行禁止となっていた。

第1回モニタリング(平成22年度)との結果比較:前回(7/4、10/24調査)と比べ、季節変動や暦上の条件を考慮すると、利用者数や利用目的に大きな変化はないと考えられた。ただし、聞き取り情報によると、利用者数は年々減少しているとのことであった。



白神岳登山口駐車場 13時頃



白神岳登山口